

小売業：業況は△25.9 ㊦と依然低いが前期比+1.3 ㊦と一服感を示した。今期は売上額、収益も前期比較で小さな悪化であるが、来期予想では売上額△20.4 ㊦、収益△22.2 ㊦とさらに悪化し、仕入価格+14.8 ㊦と上昇し、資金繰りも△13.0 ㊦と厳しくなる見通し。

サービス業：コロナ禍での営業が続き、最も影響を受けていると思われるサービス業では前期一旦回復を見せた。しかし今期は、売上額で前期比△38.9 ㊦、収益で前期比△41.7 ㊦、材料価格前期比+11.1 ㊦と軒並み悪化傾向を示す。当面の重点施策では「新しい事業を始める」が前期比 5.6%で目を引いた。

建設業：業況は前期比+6.3 ㊦と改善傾向を示すも、売上額は前期比△8.3 ㊦、受注残は前期比△4.2 ㊦と主要指数でやや陰りが伺える。材料価格は+39.6 ㊦と依然上昇傾向を示すが、請負価格で前期比+10.4 ㊦と改善されており、収益で前期比+8.3 ㊦と反映された。しかし、来期見通しで材料価格は+43.8 ㊦と更に上昇を見込み、収益は△12.5 ㊦と悪化の予想。

不動産業：今期業況は、+6.5 ㊦と前期に引き続きプラスを示す。売上額は前期比+12.9 ㊦、収益は前期比+9.7 ㊦と好況を示しているが、仕入価格が+19.4 ㊦と前期に引き続き高いため、今後の収益への影響が注視される。

地域別天気図 <信金中央金庫「中小企業景況レポート 2022.1～3月期」を転用>

【地域別天気図（今期分）】

地域 業種名	北海道	東北	関東	首都圏	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州北部	南九州
総合											
製造業											
卸売業											
小売業											
サービス業											
建設業											
不動産業											

(この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調

特別調査：「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」

Q1：「貴社では、最近の原材料・仕入れ価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。」

回答：「多少悪影響がある 45.7%」、「ほとんど影響はない 27.4%」、「かなり悪影響がある 22.0%」、「危機的な悪影響がある 1.1%」を含め悪影響があると回答したのは全体で 68.8%と約7割が悪影響を受けている結果となった。業種別では、製造業で悪影響があると回答した割合は 90.3%、建設業が 85.5%と高い。

Q 2 : 「貴社の原材料・仕入価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか。」

回答：最も多い回答は「5～10%程度の上昇」で、上昇したと回答した割合は78.0%で8割近い企業で仕入価格が上昇している。中でも「30%以上の上昇」と回答したのは2業種で、製造業が1.6%、建設業が2.1%と他の業種よりも上昇率が高いことが伺える。

Q 3 : 「貴社では、原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。」

回答：仕入価格上昇の100%転嫁できていると回答した企業は、4.3%と少なく、「ほとんど転嫁できていない・全く転嫁できていない・転嫁どころか販売価格は低下している」と回答した企業割合は27.2%、業種別では小売業38.9%、製造業33.9%、建設業31.3%の3業種が高い。

Q 4 : 「原材料・仕入については、価格の上昇のほか、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。貴社では、各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。」

回答：37.4%が確保できていると回答。できていない場合の対策では、製造業は「販売先への納期の調整12.9%」との回答が最も多く、小売業では「代替品の調達（同等品質14.8%）」、「仕入れ先の変更・多角化14.8%」が多く、業種により対応にばらつきがあった。

Q 5 : 仕入の困難化に伴い、仕入先を見直す動きも出ています。貴社では、仕入先の見直し等を検討するにあたって、重視する点はありますか。」

回答：「仕入先の見直しは検討していない43.2%」が最も多く、「仕入価格36.8%」、「日ごろからの付き合い・紹介24.9%」と続いた。業種別では、卸売業で「安定供給力23.5%」が他業種より高く、製造業で「SDGs等、環境への取り組み8.1%」と回答した割合が他業種より高かった点が特徴的であった。

（「ひびしん 中小企業景気動向調査結果」より、抜粋しました。）